

# 令和3年度 麗澤幼稚園 自己評価

## 麗澤教育の理念

麗澤教育は、創立者廣池千九郎が提唱した道徳科学「モラロジー」に基づく知徳一体の教育を基本理念とし、学生生徒の心に仁愛の精神を培い、その上に現代の科学、技術、知識を習得させ、国家、社会の発展と人類の安心、平和、幸福の実現に寄与できる人物を育成する。

## 麗澤教育のめざす人間像

1. 大きな志をもって真理を探究し、高い品性と深い英知を備えた人物
2. 自然の恵みと先人の恩恵に感謝し、万物を慈しみ育てる心を有する人物
3. 自ら進んで義務と責任を果たし、国際社会に貢献できる人物

## 麗澤幼稚園の教育目標

- 思いやりのある子（思いやりの心）
- 感謝のできる子（感謝の心）
- たくましい子（自立の心）

### 【評価基準】

1：不十分 2：やや不十分 3：どちらともいえない 4：実施できた 5：しっかりと実施できた

### 1. 教育について

評価項目	評価	取り組み状況
① 教育目標である「思いやりのある子（思いやりの心）、感謝のできる子（感謝の心）、たくましい子（自立の心）」を理解し、目標達成のために心のドリル等も活用しつつ、日々の保育や活動が工夫できているか。	5	1学期は「思いやりの心」を意識し、新しく出会った友達同士仲良くかかわれるよう取り組んだ。年長組は年少組へ帰りの身支度の手伝いに行くなど、優しくいたわる経験ができた。2学期は「自立の心」を意識し、運動会や発表会等を通して、最後まで頑張りぬくたくましさを育てた。3学期は「感謝の心」が育つよう、友だちの良いところをたくさんみつけ、ありがとうを伝え合った。何かをしてもらうと自然と「ありがとう」の感謝の言葉が聞かれ、心の育ちを実感できた。また、毎日朝の会では、子ども達の様子やその日の活動に合わせた内容の心のドリルを取り上げ、子ども達の心を育てる努力ができた。
② 園児の基本的な生活習慣を確立するための指導や援助はできているか。	5	今年度も園生活の中で、所持品の始末の仕方、ロッカーの整理整頓の仕方、食事時のマナーや好き嫌いを何でも食べることなど、繰り返し伝え、指導援助できた。昨年に引き続きコロナウイルス感染症の感染リスクを避けるため、マスクの着用、手洗いの励行、手指消毒についても繰り返し指導を行い、習慣づけることができた。
③ 子ども達が様々な体験を通して、諦めずにやり遂げる達成感や、友達と協力する喜びを味わっているか。また、当番活動等を通じて、責任感や人の役に立つ喜びを体験できているか。	5	行事だけではなく日常の活動を通して、友だちと協力し合い活動を楽しむ姿やチャレンジカードの項目ができるようになるまで努力する姿が見られた。また運動会や発表会などの園行事を通して協力しながら根気よく取り組み、自信を持てるような体験ができた。特に3学期はそれぞれ個人目標を立て、達成に向けて頑張り、達成感を味わった。また、当番活動では責任感を持って生き生きとやり遂げる姿が見られた。3学期は、年中児が郵便屋さんになりきり、配達を通して役に立つ喜びを満喫していた。

④ 異年齢交流等を通して、子ども達に思いやりの心や感謝の心を育むことができるか。	4	昨年同様、感染リスクを避けるため、全学年が一斉に集まる活動は制限されたが、年長、年中児はペアでじゃがいも掘りやさつまいも掘りに行くことができ、年長児には下級児をいたわり励ます経験が、年中児には年長児への憧れと信頼の心が芽生え良い経験となった。また、形を変更するなど保育者の創意工夫によって異年齢交流ができる機会を持つこともできた。
⑤ 立腰教育を通して、話を聞く姿勢を養うことができるか。	5	朝の会や活動時など着座して話を聞く際は、正しい立腰の姿勢ができるよう声掛けをし、意識して姿勢を正せるよう取り組んできた。次第に立腰の姿勢が身に付き、集中力も増してきたと感じる。
⑥ 特別活動（体育指導・英語教育）を通して、子ども達の成長を促す援助がなされているか。	4	今年度からスタートした英語教育は、短時間のレッスンの積み重ねにより、外国人の方や英語で発話することへの壁を取り払い楽しみながら英語力の向上ができた。体育指導は専任の指導講師の指導により、子ども達は体を動かすことが大好きになり、また、楽しく英語を学ぶことができた。専任講師の補助を務めながら担任達も学びを深め、日々の保育の中に取り入れて活かし楽しむこともできた。
⑦ 園庭や学園の豊かな環境を通して自然現象や虫、植物等に親しみ、探求心や好奇心を育てているか。	4	春から秋にかけては虫探しを楽しみ、図鑑を見ながら虫について知識を深め、飼育に挑戦したり、園で孵したかぶとむしを観察したりと虫に親しみを感じる事ができた。冬場は霜柱や氷を見つけて不思議がり、園庭での氷づくりにも取り組んだ。季節ごとに芝生へ散歩に行き、木々の葉っぱの違いやどんぐりの実の違いに気づく姿もあった。学年ごとにプランターでの植物栽培や年長組は大根の種まきを行い、栽培を通して成長過程を興味深く観察できた。
⑧ 季節の行事を通して日本や世界の文化に親しみ、心豊かで逞しい子に育てることはできているか。	4	感染リスクを避けるため、中止せざるをえなかった行事もいくつかあったが、保育者の創意工夫によってクリスマス会や節分の行事を実施し、世界や日本の文化に親しむことができた。また、行事を通して心豊かで逞しい子に育つよう、指導援助することができ、実施できない行事についても紙芝居や絵本等を用いて親しみが持てるようにした。

## 2. 保護者との連携について

評価項目	評価	取り組み状況
① 子ども達の園での姿について保護者に十分に伝えられているか。	3	コロナ禍の影響を受け、降園時も園庭での引き渡しとなり例年のようにゆっくりとお話しする時間を十分にとることは難しかったが、出来るだけ保育中の様子を伝えたり、連絡ノートの活用や電話連絡等をこまめに行ったりと、情報共有に努めた。また、保育参観や個人面談時には、子どもの成長について話し合うことができた。
② 園児の成長や課題について保護者との情報共有がしっかりとできているか。	3	担任は、園児一人ひとりの成長記録をとっており、成長できたこと、また、気がかりなことなどはできるだけ情報共有できるよう心掛け、必要な際には個々に話す機会を設け保護者にも伝えるようにしてきた。
③ 保護者が園児の発達について相談しやすい環境となっているか。	3	例年同様、感染防止対策の観点から裏門よりお迎えとなり、帰りの会への参加を実施できなかったため、開門時間を早め、帰りの会の様子を外からご覧いただく形をとってきた。しかし、園内への出入りも制限をかけざるをえず、以前のように相談しやすい環境とはいえなかった。

## 3. 教職員について

評価項目	評価	取り組み状況
① 現状に満足することなく、保育者が日々保育内容の充実や改善・工夫をしているか。	5	今年度も、毎月の目標に対して週ごとのねらいを決め、日案という一日のスケジュールを立てて保育を行っている。子ども達が帰ると同学年の担任同士で子ども達の様子を振り返り、主活動の内容はどうであったか日々反省し、翌日の保育に繋げている。また、コロナ禍での分散登園期間中も、オンラインを活用し自宅からでも保育を受けられるよう工夫をした。園行事についても、コロナ禍ではあるが、昨年の制限された中での保育経験をもとにさらに話し合いがなされ、改善工夫をして取り組めた。
② 教育や保育の課題について教職員間での情報共有・連携がしっかりとされているか。	5	毎日の職員朝礼時や夕礼時、また週1回の定例会、月1回の学年主任会議において、子ども達の様子等を情報共有し、教育や保育内容、課題についても話し合いがなされ、共有・連携をとっている。
③ 研修や研究を通じて保育者が自己研鑽に務めているか。	4	今年度も引き続き、コロナ禍により、研修に参加しづらい社会情勢となっていたが、毎朝のネイティブ講師による英語レッスンに加え、保育者が自ら立案した目標に向かって自己研鑽に努めることができた。

#### 4. 幼稚園全体について

評価項目	評価	取り組み状況
① 施設・設備の定期的な点検や清掃・整理整頓等、子ども達にとって安心・安全な環境となるように努められたか。	5	引き続き新型コロナウイルス感染症予防の為、日々の清掃に加えて、園内各所の消毒を行った。遊具については、毎週行っている遊具の安全確認も行い、園児たちにとって安心安全の環境の環境になるよう努めている。
② 子育て支援事業を積極的に展開することができたか。	3	緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の中でも、保育を必要とする園児のために預かり保育を始めとした子育て支援の提供を積極的に進めた。コロナ禍の中でも、感染リスクを避けながらの実施を模索する等、ウィズコロナの精神で実施をすることができた。 しかし預かり保育に関しては感染予防対策及び園児の安全確保の一環として定員を制限せざるを得ず、必要な方すべてに子育て支援が行き届かない側面もあった。次年度は子育ての森どんぐりの竣工により保育スペースが拡充されるため、より多くの方々に向けた預かり保育の提供ができるよう尽力していく。
③ 保育参観・懇談会、HPや園便りを通じて、園児の様子や子育てに関する情報を積極的に発信、公開できたか。	4	新型コロナウイルス感染症予防の為、園行事が減少する中ではあったが、密を避けるために保育参観の回数を増やして対応したり、英語の発表会をオンライン形式にしたりするなど、実施方法の工夫で情報発信や公開に努めた。 また、オンライン保育を始めとして、Instagram、HPを使用して情報発信に努めた。

## 令和3年度 麗澤幼稚園 学校関係者評価

実施日 : 令和4年3月26日～4月4日

実施方法 : WEBによるアンケート

評価委員 : 父母の会役員21名 (内回答15名)

### 【評価基準】

5: 思う 4: どちらかといえば思う 3: どちらともいえない 2: どちらかといえば思わない 1: 思わない

### 1. 教育について

① 教育目標である「思いやりのある子 (思いやりの心)、感謝のできる子 (感謝の心)、たくましい子 (自立の心)」に沿った保育が展開されていると思いますか。

5	4	3	2	1
80%	20%	0%	0%	0%

② 園児の基本的な生活習慣を確立するための指導や援助はされていると思いますか。

5	4	3	2	1
66.7%	26.7%	6.7%	0%	0%

③ 子ども達が園生活の中で達成感や責任感を体験できていると思いますか。

5	4	3	2	1
53.3%	40%	6.7%	0%	0%

④ 異年齢交流等を通して、子ども達に思いやりの心や感謝の心が育まれていると思いますか。

5	4	3	2	1
40%	46.7%	13.3%	0%	0%

⑤ 園生活を通じて、話を聞く姿勢が養われていると思いますか。

5	4	3	2	1
46.7%	46.7%	6.7%	0%	0%

⑥ 体育指導・英語教育を通して、子ども達の成長を促す援助がなされていると思いますか。

5	4	3	2	1
46.7%	33.3%	13.3%	6.7%	0%

⑦ 園生活を通じて探求心や好奇心を育てていると思いますか。

5	4	3	2	1
33.3%	33.3%	33.3%	0%	0%

⑧ 季節の行事を通して心豊かな子どもに育てる保育が行われていると思いますか。

5	4	3	2	1
53.3%	46.7%	0%	0%	0%

### 2. 保護者との連携について

① 子ども達の園での姿について園から十分に伝えてもらっていると思いますか。

5	4	3	2	1
40%	40%	20%	0%	0%

② 子どもの成長や課題について保育者と情報の共有ができていると思いますか。

5	4	3	2	1
26.7%	53.3%	20%	13%	0%

③ 子どもの発達について相談しやすい環境だと思えますか。

5	4	3	2	1
60%	26.7%	13.3%	0%	0%

### 3. 教職員について

① 保育者が日々保育内容の充実や改善・工夫をしていると思いますか。

5	4	3	2	1
46.7%	46.7%	6.7%	0%	0%

② 教職員間で情報共有・連携がしっかりとされていると思いますか。

5	4	3	2	1
26.7%	40%	26.7%	6.7%	0%

③ 研修や研究を通じて保育者が自己研鑽に務めていると思いますか。

5	4	3	2	1
33.3%	26.7%	40%	0%	0%

### 4. 幼稚園全体について

① 幼稚園が子ども達にとって安心・安全な環境となっていると思いますか。

5	4	3	2	1
60%	40%	0%	0%	0%

② 子育て支援事業が十分に提供されていると思いますか。

5	4	3	2	1
40%	26.7%	33.3%	0%	0%

③ 園より園児の様子や子育てに関する情報が十分に提供されていると思いますか。

5	4	3	2	1
26.7%	53.3%	20%	0%	0%